

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こども家庭支援の心理学		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 山本 雅子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 生涯発達についての心理的知識を習得する。家庭・家族の意義、家族関係について理解し、支援について学ぶ。					
〔授業全体の内容の概要〕 心理学的視点から生涯発達について理解し、初期発達の重要性及びライフサイクルについて深く理解する。 子育て家庭を取りまく現状を知り、支援のあり方を理解していく。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 人間関係の生涯発達についての心理学的基礎を習得する。家庭や家族の意義・機能を理解する。 子育てをめぐる社会的状況と課題について理解し説明できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	生涯発達①			乳児期～高齢期に至る心理学的な生涯発達について	
2	生涯発達①				
3	生涯発達①				
4	生涯発達①				
5	生涯発達①				
6	生涯発達①				
7	家庭・家族について			家庭や家族の意義と機能について	
8	家族関係について			家族や親子の関係について	
9	親理解について			子育ての経験と親としての育ちについて	
10	子育てに関する社会的状況			こどもや家庭を取りまく社会的な状況について	
11	ライフコースについて			ライフコースと仕事・子育てについて	
12	多様な家庭			多様な家庭のあり方について	
13	子育て支援に係る特別なニーズ			特別な配慮を要するこどもと家庭について	
14	こどもの発達と環境			こどもの生活や生育環境について	
15	こどものこころの健康			こどもの精神保健について	
〔使用テキスト・参考文献〕 「新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学」 白川佳子・福丸由佳編/中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こども家庭支援論		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 仲宗根 政貴	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 本科目は、子どもの発達過程における各課題について触れ、概観し、さらには家族のあり様について理解しながら、保育者として相対する子ども、その保護者支援につなげるための知識・技術について深く学ぶことをねらいとし、今後、各学生が子ども支援に携わる専門職として実践するための、その土台構築につなげることを目的とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 本テキストを中心にしながら、ペアワークやグループワークを活用しつつ講義を進める。また講義毎において、本講義の到達目標として掲げる専門職としての「アセスメント力」構築につながるようソーシャルワークにかかるトピックスも取り入れながら講義を展開する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 発達の理解や家族、地域をめぐる現状などを踏まえ、相対する子ども、その保護者支援に関する知識・技術構築はもちろんのこと、専門職として必要な「アセスメント力」を構築する。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	生涯発達①			保育における心理学、発達過程について理解する	
2	生涯発達②			発達を規定する要因について理解する	
3	生涯発達③			愛着関係と愛着行動について理解する	
4	生涯発達④			ライフサイクルを概観し発達上の特性等を理解する	
5	生涯発達⑤			幼児期から学童期、青年期や成人期、老年期における発達課題を理解する	
6	家族・家庭の理解①			家族・家庭の意義と機能について学ぶ	
7	家族・家庭の理解②			親子関係・家族関係について学ぶ	
8	子育て家庭に関する現状と課題①			子育てを取り巻く社会的状況、その変化について理解する	
9	子育て家庭に関する現状と課題②			子育て支援における社会的背景について学ぶ	
10	子育て家庭に関する現状と課題③			ライフコースと仕事・子育てについて概観し、理解する①	
11	子育て家庭に関する現状と課題④			ライフコースと仕事・子育てについて概観し、理解する②	
12	子育て家庭に関する現状と課題⑤			多様な家庭や、特別な配慮を必要とする家庭について理解する	
13	こどもの精神保健とその課題①			子どもの生活・育成環境、地域社会の現状、子どもの貧困について理解する	
14	こどもの精神保健とその課題①			子どもの心の健康に関する課題について概観し理解する①	
15	こどもの精神保健とその課題①			子どもの心の健康に関する課題について概観し理解する②	
〔使用テキスト・参考文献〕 「こどもの発達と家庭支援」室屋雅美(豊岡短期大学)				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物	
〔参考文献〕 講義時、適宜提示する					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2020年度】

【科目名】 こどもの理解と援助		【授業の種類】 講義		【授業担当者】 仲宗根 由美	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
【配当学年・時期】 2年次 前期					
【授業の目的・ねらい】 子どもの発達の特徴を理解しながら、保育者はどのように援助し、働きかけをしていくべきかを考える。 【授業全体の内容の概要】 具体的な保育現場の子どもの姿を通して子どもの気持ち汲み取り、理化する力を身に付けることを目的とする。 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりに心身の発達や学びを把握することの意義について理解する ・こどもの体験や学びの過程において、こどもを理解する上での基本的な考え方と具体的な方法を理解する ・こどもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について学ぶ					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	こどもの実態に応じた発達や学びの把握			保育における子ども理解の意義	
2				こどもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開を理解する 子どもに対するかかわりと共感的理解	
3	子どもを理解する視点			保育園での生活や子どもの姿を捉える視点を理解する 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達を学ぶ こどもの相互の関わりと関係づくりについて理解する	
4				子ども同士の関わりや集団生活での経験と育ちについて理解する 発達における葛藤やつまずき	
5	こどもを理解する方法			保育における視察・記録・省察・評価 子ども理解のための職員間の対話 保護者との情報共有の重要性を学ぶ	
6					
7	こどもの理解に基づく発達援助			発達の課題に応じた援助とかかわり 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解する	
8	発達援助			発達の連続性と就学への支援について学ぶ	
【使用テキスト・参考文献】 新基本保育シリーズ10 こどもの理解と援助				【単位認定の方法及び基準】 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物	
【参考文献】 ちいさいなかま 保育所保育指針 最新保育士養成講座6巻 こどもの発達理解と援助					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもの保健		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 水川 知恵	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 ・ こどもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす ・ こどもを取りまく多様な環境を理解し、他者との連携を取りながら保育を行うことができる。					
〔授業全体の内容の概要〕 ・ 小児保健の意義を理解し、個々の発達段階における、身体的、生理的、社会性を踏まえた精神機能の発達について学ぶ ・ こども保健衛生活動に関する機関・施設の役割について理解する					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ・ こどもの心身の健康増進を図る保健活動について理解し、現代におけるこどもの健康に関する現状と問題について考えを持つ。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	こどもの心身の健康と保健の意義			こどもの健康の概念	
2	保健活動の意義			こどもの健康指針 現代社会における、こどもの健康に関する現状と課題	
3	地域における保健活動と虐待防止			沖縄の現状と「保健活動」及び「虐待防止」について	
4	こどもの身体的発育・発達と保健			身体的発育、運動機能の発達 生理的機能の発達状況	
5	こどもの心身の健康状態			健康状態の観察、心身の不調等の早期発見、発育・発達の把握	
6	障害のあるこどもへの対応			保護者との連携と共有	
7	こどもの病気の予防と適切な対応			主な病気の特徴、病気の予防と適切な対応	
8	感染症対策			主な感染症について学ぶ	
9	災害対策			災害対策と事故防止、安全について	
10					
11	健康及び安全管理の実施			職員間の連携・協働を念頭に組織的な取り組みについて	
12	プライバシーの保護・守秘義務			保育者としてのプライバシー保護と守秘義務	
13	保護者に対する子育て支援			保護者との信頼関係及び保育者としての子育て支援	
14	地域との関係機関との連携			沖縄の現状と事例を踏まえてまなぶ	
15	まとめ			まとめ、振り返り	
〔使用テキスト・参考文献〕 こどもの保健/豊岡短期大学 子どもの健康と安全演習ノート/診断と治療社				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもの食と栄養		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 比嘉 貞子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 発育・発達のめざましい時期のこどもの食と食背克の知識を学び、こどもが楽しく安心して食事ができ、心身ともに健やかに成長できるよう、保育現場で実践し発展させる力を養うことを目指す。 食に興味・関心を持ち、望ましい食生活の実践ができる保育士を目指す。					
〔授業全体の内容の概要〕 こどもの食生活は、健全な発育・発達に大きく影響を与えるため、栄養に関する基礎知識、各小児期の栄養・食生活の特徴、食育の重要性、食物アレルギーの対応等についての講義と幼児食の調理実習を行う					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 こどもの栄養と食生活の意義を理解し、こどもの発育・発達段階に応じた望ましい食生活の知識、食事支援の方法を習得する。 現在のこどもの食生活の現状と課題について理解し、食育の重要性、内容を理解する 特別な配慮を要するこどもの食時と栄養を理解できる					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	こどもの栄養と食生活の意義		小児栄養の重要性、小児栄養の特徴		
2	こどもの食生活の現状と課題		食品・栄養素等接種状況、生活リズム、朝食の欠食等		
3	栄養・食生活の基礎知識①		栄養素の種類と機能の概要、炭水化物		
4	栄養・食生活の基礎知識②		脂質、たんぱく質		
5	栄養・食生活の基礎知識③		ミネラル、ビタミン、水分		
6	栄養・食生活の基礎知識④		日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド		
7	妊娠・授乳期の栄養と食生活		妊娠前からはじまる妊産婦のための食生活指針等		
8	乳児期の栄養と食生活①		母乳栄養、授乳の支援		
9	乳児期の栄養と食生活②		人工乳栄養、混合栄養		
10	乳児期の栄養と食生活③		離乳期栄養、離乳の支援		
11	幼児期の栄養と食生活①		幼児期の食機能の発達と成長、食事、間食		
12	特別な配慮を要するこどもの食と栄養		疾病、体調不良、植物アレルギー等のある子どもへの対応		
13	幼児期の栄養と食生活②		幼児食と間食(調理実習)		
14	幼児期の栄養と食生活③		幼児食と間食(調理実習)		
15	小児期の栄養教育(食育)		幼児期の食育		
〔使用テキスト・参考文献〕 こどもの食と栄養/豊岡短期大学			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験		
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもと健康		〔授業の種類〕 (講義・演習・実習)		〔授業担当者〕 石垣愛一郎 / 仲宗根由美	
〔授業の回数〕 8 回		〔時間数〕 時間		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2 年 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 ・ 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「健康」の基礎を学ぶ。 ・ 乳幼児期の発育発達や指導の実際を理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態にあった配慮の仕方、こどもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会のこどもを取り巻く生活環境にも目を向けながら積極的な健康づくり指導を目指す。					
〔授業終了時達成課題(到達目標)〕 乳幼児期の健康づくりに関わる重要な要素について理解し、計画性を持って保育現場で応用ができるような知識・知力を養う。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	領域「健康」		領域「健康」のねらい、内容を理解する。		
2	心身の発育発達		発達過程に応じた保育、全体計画構成の基本		
3	こどもの健康と虐待		こどものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン		
4	基本的生活習慣の獲得		食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る		
5	遊びの発達と健康		幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割		
6	発達に応じた遊び		遊びの指導案悪性と模擬保育の振り返りから理解を行う		
7	健康と自然環境		園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点を学ぶ		
8	まとめ		保幼少連携と保育内容「健康」のまとめ		
〔使用テキスト〕 なし (印刷物)			〔単位認定の方法及び基準〕 1.学則第 18 条 1 項(認定基準)に基づく 2.学則第 19 条 1 項・2 項(成績の評価と履修認定)に基づく 3.評価規定…優(A)100 点～80 点、良(B)79 点～70 点、可(C)69 点～60 点 4.レポート・筆記試験		
〔参考文献〕 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもと環境		〔授業の種類〕 (講義・演習・実習)		〔授業担当者〕 宮城 尚 / 大城 克也	
〔授業の回数〕 8 回		〔時間数〕 時間		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2 年 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 ・ 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「環境」の基礎を学ぶ。 ・ 幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びを実現する保育を構想し、具体的な指導ができる。					
〔授業全体の内容の概要〕 領域「環境」のねらいと内容、指導上の留意点。領域環境に係る幼児の発達や学びの過程の理解。保育実践の原則を踏まえた具体的な保育構想、教材や情報機器の効果的な活用。指導案に基づく模擬保育と振り返り。					
〔授業終了時達成課題(到達目標)〕 領域「環境」がわかり、領域環境に関する狙いを達成するための幼児の発達や学びの過程を踏まえた保育実践ができる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	領域「環境」①		領域「環境」のねらい、内容を理解する。		
2	領域「環境」②		領域「環境」の内容の構成		
3	指導案作成		発達理解と指導案の作成		
4	小学校の教科等とつながり		アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム		
5	模擬保育		模擬保育の振り返り、保育を改善する視点		
6	保育構想		保育構想の重要性と保育構想の向上		
7	保育構想の重要性		幼児が身に付けていく内容と指導上の注意。		
8	まとめ		領域「環境」に関わる保育の課題。小学校とのつながり。		
〔使用テキスト〕 なし (印刷物)			〔単位認定の方法及び基準〕 1.学則第 18 条 1 項(認定基準)に基づく 2.学則第 19 条 1 項・2 項(成績の評価と履修認定)に基づく 3.評価規定…優(A)100 点～80 点、良(B)79 点～70 点、可(C)69 点～60 点 4.レポート・筆記試験		
〔参考文献〕 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもと体育		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 大城 克也	
〔授業の回数〕 1.5日		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 現代のこどもの抱える運動遊びの問題を踏まえ、身体表現活動やこどもの遊びを豊かに展開するための知識や技術を学習し、保育の環境構成及び具体的展開を結びつけていく。 〔授業全体の内容の概要〕 保育の内容を理解し、体育の基本とその内容及び体育の環境を地域の特色や文化と合わせて理解する。 〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 身体表現活動やこどもの遊びを豊かに展開するための体育の基礎的な知識や技術を理解している。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	運動はなぜ必要か			講義および演習を通して体育の基礎的な知識や技術を学習する。	
2	遊びと運動				
3	運動指導のポイント(1)				
4	運動指導のポイント(2)				
5	運動に関わる現代的な課題(1)				
6	運動に関わる現代的な課題(2)				
7	地域の特色や文化を取り入れた遊び				
8	科目のまとめ				
〔使用テキスト・参考文献〕 「こどもと健康」 萌文書林				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:レポート・筆記試験	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 乳児保育Ⅱ		〔授業の種類〕 (講義・演習・実習)		〔授業担当者〕 宮川 名子	
〔授業の回数〕 8 回		〔時間数〕 時間		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2 年 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 ・乳幼児保育の具体的な形態と方法を学び、指導計画や連絡帳などの記入方法について実践を通して学ぶ。 ・様々な乳幼児保育における問題を知り、解決方法などを自分なりに考える力を養う。					
〔授業全体の内容の概要〕 乳幼児保育におけるデイリープログラムの中で、特に重要な基本的生活習慣の自立と援助方法を習得し、保育現場で日々行われている指導計画やクラス便りの書き方など、実践をとおして学ぶ。					
〔授業終了時達成課題(到達目標)〕 ・一人ひとりに合わせた基本的生活習慣の援助方法を理解することができる。 ・指導計画の基本を学び、実習や実際の保育現場で活かすことができる。 ・様々な乳幼児保育を取り巻く問題に耳を傾け、自分なりに考え、解決できる力を養う。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	乳幼児保育の形態と方法		・乳幼児期のデイリープログラムを踏まえ、基本的生活習慣の自立と援助方法を理解する。		
2	乳幼児保育における指導計画の在り方		・指導計画の基本を学び、実際に作成する。		
3	連絡帳、クラス便りの書き方		・連絡帳、クラス便りの書き方の基本を学び、作成する。		
4	子育て支援の在り方		・現代における乳幼児保育の課題を踏まえ、子育て支援の在り方を考える。 (グループワーク)		
5	乳幼児保育に適する玩具・遊び、発表会		・乳幼児期に適する遊びを紹介し、手作り玩具を作成する。		
6					
7	乳幼児の安全管理		・チャイルドビジョンを作成し、子どもの視野体験をしながら、危険な場所を確認し、話し合う。		
8	まとめ				
〔使用テキスト〕 乳幼児保育（豊岡短期大学）			〔単位認定の方法及び基準〕 1.学則第 18 条 1 項(認定基準)に基づく 2.学則第 19 条 1 項・2 項(成績の評価と履修認定)に基づく 3.評価規定…優(A)100 点～80 点、良(B)79 点～70 点、可(C)69 点～60 点 4.レポート・筆記試験		
〔参考文献〕 保育所保育指針					

授 業 概 要

【2025 年度】

[科目名] こどもの健康と安全		[授業の種類] 演習		[授業担当者] 富名腰 義裕	
[授業の回数] 8回		[時間数](単位数) 15時間(1単位)		[配当学科] こども未来学科	
				[配当学年・時期] 2年次 後期	
[授業の目的・ねらい] 保育における保健観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、発達や状況に即した適切な対応について理解する。 こどもの体調不良等に対する適切な対応ができるようになる。 こどもの健康・安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する					
[授業全体の内容の概要] 現代社会におけるこどもの健康問題や地域保健活動について理解する。 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する こどもの体調不良や障害(応急処置・救急処置)に対する適切な対応について理解する					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] こどもの健康と安全に関連する近年のデータやガイドラインを通して、保健的対応を学び発達に即した適切な援助を学ぶ					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助			こどもの健康と保育の環境について こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理	
2	保育における感染症対策			こどもの感染発症時と罹患の子の対応 保育園での集団発生の予防と家庭や関係機関との連携	
3	保育における健康及び安全の管理			衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害の備えについて	
4	個別的な配慮を要するこどもへの対応			保育における保健的対応の基本的な考え方 3歳未満児への対応 個別的な配慮を要する子どもへの対応 障がいのある子どもへの対応	
5					
6	健康及び安全の健康の実施体制			職員間の連携と組織的取り組み 保育における健康活動の計画及び評価 母子保健・地域保健における自治体との連携 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携	
7					
8	まとめ			保育における保健活動の計画及び評価	
[使用テキスト・参考文献] こどもの健康と安全演習ノート/診断と治療社				[単位認定の方法及び基準] 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験	
[参考文献]					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 社会的養護Ⅱ		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 須藤 竜	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 社会的養護についての理解を深め、保育士として実践に活かせる力を養う。 事例検討や実践例を学ぶことで自分ごととして捉える力を養う。					
〔授業全体の内容の概要〕 本事業はグループワークを中心に意見交換を活発に行っていく。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1 人ひとりが自分の意見をしっかりと伝えること、相手の話をしっかりと聞くことで現場でも使えるコミュニケーション力をつける。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	世界の児童養護施設			講義。グループディスカッション。	
2	子どもの権利擁護			講義。グループディスカッション。	
3	社会的養護の内容 日常生活支援、心理的支援			講義。グループディスカッション。	
4	社会的養護の内容 自立支援			講義。グループディスカッション。	
5	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践			講義。グループディスカッション。	
6	社会的養護における家庭支援			講義。グループディスカッション。	
7	今後の社会的養護の課題と展望			講義。グループディスカッション。	
8	まとめ				
〔使用テキスト・参考文献〕 新基本保育シリーズ18 社会的養護Ⅱ				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート・筆記試験	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

【科目名】 子育て支援		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 真栄城 かの子	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
【配当学年・時期】 2年次 前期					
【授業の目的・ねらい】 保育の専門性を活かした子育て支援を学ぶ					
【授業全体の内容の概要】 保育所保育指針に示されている子育て支援を理解した上で、支援の実際について学ぶ。保育者として必要な子育ての知識や保護者の子育て上の心配や悩みの解決への支援の仕方、虐待の防止、保護者支援のために必要な保育技術や制度、政策、専門機関との連携等、こどもの幸せを念頭に置き、保育者として理化しておくことを演習などを通して学ぶ。					
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 子育て支援の意義と原則について理解し、保育者の使命感や倫理観を確かなものにする。 保育士が保護者に対して行う専門性を背景とした保育相談支援について、その特性と展開について理解する。 子育て支援の内容と方法及び技術を実践事例などを通して具体的に理解する。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	子育て支援の意義・機能		子育てし支援とは、保護者に対する子育て支援の意義		
2	子育て支援の原則(原理原則)		保育の特性と保育士の専門性を活かした支援、子供や保護者に対する支援の基本		
3	子育て支援の実際		保育所における子育て支援。特別な配慮を要する子どもと家庭絵の支援。要保護児童に対する支援。その他の児童福祉施設における子育て支援		
4	子育て支援の展開		支援計画→実施→終結までの過程を理解する		
5	支援の方法と技術		子育て支援の方法、技術について学ぶ。 支援の方法と技術「保育技術」「保育相談支援技術」等		
6	保護者とのコミュニケーションスキルを高める		保護者とのコミュニケーションをとるための環境作り 演習課題を基にグループディスカッションを行い発表する		
7	保育カウンセリングについて		カウンセリングの基礎知識を学ぶ(技法)		
8	ロールプレイ		いくつかの事例をグループに分かれて話し合う。 ニーズに合った支援の検討 保護者と保育士の立場になってロールプレイ		
【使用テキスト・参考文献】 新・基本保育シリーズ「子育て支援」 保育所保育指針、保育所保育指針解説			【単位認定の方法及び基準】 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験		
【参考文献】					

授 業 概 要

【2025 年度】

【科目名】 保育実践演習		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 大城克也・仲宗根由美	
【授業の回数】 15回		【時間数】(単位数) 30時間(2単位)		【配当学科】 こども未来学科	
【配当学年・時期】 2年次 後期					
【授業の目的・ねらい】 ・保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する課題についての現状分析、考察、検討を行う。					
【授業全体の内容の概要】 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。					
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士としての必要な知識・技能を修得したことを確認する。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	・授業のねらいや目標についての確認		・保育実践演習の意義と進め方について		
2	・卒業発表会のグループ作り		・卒業発表会に向けてグループを作り、教材研究を行って発表内容を決める。		
3	・卒業発表会の内容について話し合う		・事例を通して保育相談支援の方法や技術を学ぶ DVD鑑賞「保育所の地域子育ての支援」		
4	・卒業発表会の招待カード、ポスターの作成		・保護者や非常勤の先生、地域の保育園や児童館に呼びかける招待カードとポスターの作成をする。		
5	・卒業発表会の招待カード、ポスターの作成		・保護者や非常勤の先生、地域の保育園や児童館に呼びかける招待カードとポスターの作成をする。		
6	・各グループで卒業発表会に向けての取り組み		・各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。		
7	・各グループで卒業発表会に向けての取り組み		・各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。		
8	・各グループで卒業発表会に向けての取り組み		・各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。		
9	・各グループで卒業発表会に向けての取り組み		・各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。		
10	・各グループで卒業発表会に向けての取り組み		・各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。		
11	・各グループで卒業発表会に向けての取り組み		・各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。		
12	・卒業発表会		・卒業発表会終了後、振り返りを行う。 ◎卒業発表会に向けて2度程、リハーサルを行う。 ◎各グループに分かれて取り組み発表を行う。		
13	・卒業発表会				
14	・卒業発表会				
15	・卒業発表会				
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
【参考文献】 幼稚園教育要領 保育所保育指針解説			1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法: 課題発表、レポート等提出物		

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもと言語表現		〔授業の種類〕 (講義・演習・実習)		〔授業担当者〕 宮川 名子	
〔授業の回数〕 8 回		〔時間数〕 時間		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2 年 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 ・ 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「言葉」の基礎を学ぶ。 ・ 乳幼児期のことばの発達や指導の実際を理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 保育所保育指針・幼稚園教育要領領域「言葉」の基礎を身につけ、乳幼児期のことばの発達を理解し、指導の仕方を具体的に学ぶ。また、児童文化財の保育への展開方法を理解し、自ら学び、実践できる力を養う。					
〔授業終了時達成課題(到達目標)〕 ・ 乳幼児期のことばの特徴に関する専門的知識を身につける。 ・ 言語障害の乳幼児に対する指導方法を理解し、実践できるようになる。 ・ 保育所、幼稚園、認定こども園でおこなわれている児童文化財へ関心をもち、自信を持って実演ができるようになる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	領域「言葉」		領域「言葉」のねらい、内容を理解する。		
	児童文化財とは		児童文化財の概念、種類、特徴などを理解する。		
2	子どもの言葉の発達		胎児期から幼児後期までの言葉の発達と特徴を理解する。		
3	子どもの言葉の指導		言葉の発達の特徴を踏まえ、指導の仕方のポイントを押さえる。		
4	児童文化財の保育への展開（1）		児童文化財の種類と特徴を理解し、保育の中でどのように活かしていくのか学ぶ。		
5	○児童文化財の保育への展開（2）		児童文化財の中から1つ選択し、実演する。		
6					
7	言葉の障害		言語障害の種類を理解し、対応の仕方を学ぶ。		
8	まとめ				
〔使用テキスト〕 なし（印刷物）			〔単位認定の方法及び基準〕 1.学則第 18 条 1 項(認定基準)に基づく 2.学則第 19 条 1 項・2 項(成績の評価と履修認定)に基づく 3.評価規定…優(A)100 点～80 点、良(B)79 点～70 点、可(C)69 点～60 点 4.レポート・筆記試験		
〔参考文献〕 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもと音楽表現Ⅱ(声楽)		〔授業の種類〕 実技		〔授業担当者〕 宮城 萌枝 / 大城了子	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 30時間 (1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 保育内容を理解し、弾き歌いや歌唄を通して音楽表現に関わる技術や知識を習得する					
〔授業全体の内容の概要〕 習熟度に応じた個別指導を行う。実践を意識した弾き歌いの練習やグループ練習、ステージ発表を行う					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 テンポを保ちながら曲の流れを止めずに弾き歌いができる。歌詞の意味を理解し、表現豊かに歌うことができる					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1 ↓ 4	オリエンテーション 楽譜コードのよみ方 コードの実践演習 コード・スケールの練習			自己紹介・授業概要の説明・理解度チェックシート 楽譜・コードのよみ方の説明・練習 コード弾きの実践演習(転回系) ドキドキドン！1年生・ドレミの歌をつかったコード・スケールの練習	
5 ↓ 11	とんぼのめがね おべんとう はをみがきましょう			発声練習、とんぼのめがね、おべんとう、はをみがきましょう	
12 ↓ 15	リハーサル			弾き歌いリハーサル	
16	合唱			smile・ドレミの歌の歌詞チェック・音とり練習	
17 ↓ 24	ステージプラン 発表			ドレミの歌、とんぼのめがね、おべんとう、はをみがきましょう	
25 ↓ 29	弾き歌いリハーサル			弾き歌い・試験リハーサル	
30	復習			試験の対策・練習	
〔使用テキスト・参考文献〕 「ポケットいっぱいの歌」 「うたえる！ひける！ピアノ曲数②」				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:実技試験	
〔参考文献〕 おとなのためのテクニックマスター					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 特別支援教育		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 仲間 優子	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 特別な教育ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 特別な教育的ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の在り方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 特別な教育的ニーズを理解し、具体支援方法や留意点を表現できる。 特別支援教育の対象となる子どもの支援方法について説明できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程			特別な教育的ニーズとは何か 特別支援教育課程と学びの場	
2	発達障がいや軽度知的障害を持つ子どもの特性			発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち 子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び	
3	視覚障害・聴覚障害・知的障害、肢体不自由、病弱等を含む様々な障害のあるこどもの特性			多様な子どものニーズの理解 多様な子どもの学びと生活	
4	子どものニーズに合わせた支援			教育過程における支援 通常の学級における担任による支援	
5	教育チームによる組織的支援			個別の指導計画及び個別の支援計画 アセスメントに基づく計画と評価	
6	特別支援教育コーディネーター			特別支援教育コーディネーターの役割 外部教育資源との連携と協働	
7	保護者・家庭支援と連携			保護者・家庭を取りまく問題 保護者・家庭とのつながりの重要性	
8	特別な教育的ニーズ			母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援	
〔使用テキスト・参考文献〕 特別支援教育/豊岡短期大学				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 保育ソーシャルワーク論		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 宮田 英治	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 保育所及び保育士における、保護者に対する保育に関する指導や子育て等に対する相談・助言、情報提供、関係機関との連携等、ソーシャルワーク機能に関する内容を学ぶ。					
〔授業全体の内容の概要〕 ソーシャルワークとは何かを理解する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 保育現場において、ソーシャルワークを実践できる力を養う。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	保育ソーシャルワークとは何か		乳児期～高齢期に至る心理学的な生涯発達について		
2	障害の社会モデル		バリアフリーについて学ぶ		
3	ソーシャルワークの定義		ソーシャルワークのグローバル定義について学ぶ		
4	自己覚知		自己覚知とは何かについて学ぶ		
5	システム思考とエコシステム		エコロジカル・システムアプローチについて学ぶ		
6	パーソンセンタード・アプローチ		子ども主体の保育について学ぶ		
7	認知アプローチ		リフレーミングについて学ぶ		
8	行動変容アプローチ		応用行動分析について学ぶ		
9	交流分析アプローチ		エゴグラムから自分の自我の傾向を学ぶ		
10	アサーティブネススキル		上手な自己主張について学ぶ		
11	ストレングス視点		ライフヒストリを振り返り、ストレングスの活用について学ぶ		
12	ナラティブ・アプローチ		ドミナントストーリーからオルタナティブストーリーについて学ぶ		
13	解決志向アプローチ		未来の解決像について学ぶ		
14	アウトリーチ		孤立している家庭を支援することについて学ぶ		
15	アタッチメント		愛着関係について学ぶ		
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕		
〔参考文献〕			1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験		

授 業 概 要

【2025 年度】

【科目名】 保育の方法(制作)		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 平田千悦子	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
【配当学年・時期】 2年次 前期					
【授業の目的・ねらい】 ・あそびや生活体験を生かした保育活動の展開を知る。 ・あそびを通して成長・発達することもたちの、年齢や発達にあった玩具を考え制作する。					
【授業全体の内容の概要】					
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・こどもの年齢に応じた遊びや適したおもちゃが理解でき、保育実践に役立てることができる。 ・指導計画案作成上の観点を理解する。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	はじめに(授業の説明、展開方法) 制作①			・こどもが主体的に遊びを作り出していくプロセスについて ・制作「マジックスクリーン」	
2					
3	おもちゃ(手づくりと既制)と遊びとの関係と発達過程 制作②			・乳児の発達の道筋を理解し、実践例を通して援助・あそびについて考える。 ・制作「布ガラガラ」	
4					
5	おもちゃ(手づくりと既制)と遊びとの関係と発達過程 制作③			・幼児(2・3歳児)の発達の道筋を理解し、実践例を通して援助・あそびについて考える。 ・制作「紙皿シアター」	
6					
7	おもちゃ(手づくりと既制)と遊びとの関係と発達過程 制作④			・幼児(4・5歳児)の発達の道筋を理解し、実践例を通して援助・あそびについて考える。 ・制作「牛乳パックキューブ」	
8					
【使用テキスト・参考文献】				【単位認定の方法及び基準】 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物	
【参考文献】					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 保育の方法(体育)		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 大城克也	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 ・子どもの心身共に健やかな発達にとって運動遊びの重要性、楽しさを知り、保育実践に活かす。					
〔授業全体の内容の概要〕 ・幼児体育に必要な基礎運動、マット運動、跳び箱等の運動遊びの正しい手順の指導、取り組むにあたっての留意点、声掛けや補助の仕方を学習する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ・身体を動かすことが楽しいことを保育者として子どもと共に実践でき、運動遊びがもたらす効果を理解した保育ができる。 「幼児体育指導者 2 級取得」					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション・授業のねらいについて 運動遊びの重要性			子どもの発達に合った運動遊び、重要性を理解する。	
2					
3	基本動作 / 体操			保育園における基本動作や手具を使った運動遊びを 実践し、年齢に応じた遊びを理解する。	
4					
5					
6	ボールを使った指導方と遊び			ストレッチ、リラックス方法、クールダウン、水分補給など配慮事項を学ぶ。 。	
7					
8	振り返り			基本動作のテスト(実技)、運動遊びの重要性についての評価を行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕				〔単位認定の方法及び基準〕	
〔参考文献〕 ・幼児体育(応用編) ・柳沢運動プログラム				1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物	

授 業 概 要

【2025 年度】

【2025年度】

[科目名] 楽しいリトミック		[授業の種類] 演習		[授業担当者] 與那嶺 基子	
[授業の回数] 15回		[時間数](単位数) 30時間(2単位)		[配当学科] こども未来学科	
[配当学年・時期] 2年次 前期					
[授業の目的・ねらい] こどものためのリトミックについて理論と実践を学び「幼稚園、保育園のためのリトミック指導資格2級」を取得する。					
[授業全体の内容の概要] リズム運動、指導法、演奏法を学び、実践やロールプレイング等を通して体得していく。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 2級のリズム課題、演奏課題の習得。 実習でも現場でもすぐ活かせるリズム遊び、音楽あそびの習得とリトミックの目的と楽しさを理解すること。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	リトミック概要・楽しいリトミックの経験			開講式、リトミックについて、即時反応などのリトミックを経験してもらう。	
2	基礎的な動き			基本的な動き・強弱・テンポ・空間・アクセント・基礎リズム	
3	基礎リズム			動きを使ったリトミック・拍子を使ったリトミックの実践	
4	リズムの演奏法			3才児指導法にともなう演奏法の実践	
5	ティーチング			3才児指導法1学期、体験と実践	
6	リズムの演奏法			3才児指導法の2学期、演奏法	
7	ティーチング			3才児指導法-2学期、体験と実践	
8	リズム運動			基礎リズム(2拍子)、拍子(3拍子、4拍子)	
9	ティーチング			3才児指導法-3学期	
10	リズムの演奏法			リズムの演奏法、試験内容公示	
11	リズム・拍子			基礎リズムを使ったリトミック、拍子(3拍子、4拍子)	
12	ティーチング			3才児指導法 総括 1-3学期 発表	
13	リズムカノン			まねっこリズム(中断カノン) チェーンカノン 試験の練習	
14	リズムの演奏法			3才児指導法 1-3学期 試験対策	
15	理論			リトミックの理論とダルクローズについて 試験対策	
	試験			2級資格認定試験	
[使用テキスト・参考文献] 幼稚園・保育園のためのリトミック3歳児用				[単位認定の方法及び基準] 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、実技試験	
[参考文献] 「リトミックってなあに」岩崎光弘 著					

授 業 概 要

【2025 年度】

[科目名] 保育実習Ⅱ又はⅢ		[授業の種類] 実習		[授業担当者] 仲宗根 由美・大城 克也	
[授業の回数] 11日間(88H)＋オリエンテーション(2H)		[時間数](単位数) 90時間(2単位)		[配当学科] こども未来学科	
[配当学年・時期] 2年 前期					
[授業の目的・ねらい] 保育所、施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める こどもの観察やかかわりの視点を名確認することを通して保育の理解を深める 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、こどもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ [授業全体の内容の概要] 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価などについて実際に取り組み、理解を深める 養護と教育が一体となって行われる保育を理解する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 保育所の保育を実際に実践し保育士として必要な資質・技術を習得する 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
[使用テキスト・参考文献] ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				[単位認定の方法及び基準] 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:実習評価	
[参考文献] ・保育園の実習完全マニュアル ・保育の学びスタートブック					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2023年度】

〔科目名〕 保育実習事前指導Ⅱ又はⅢ		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 仲宗根 由美・大城 克也	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 ・保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 ・既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。					
〔授業全体の内容の概要〕 ・養護と教育が一体となつて行われる保育を理解する。 ・指導案作成の方法を深める為にグループ討議や演習を行い、実際の保育計画を立てる。					
〔授業終了時達成課題(到達目標)〕 ・保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・技術を習得する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解したうえで実習に取り組む。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	事前指導ガイダンス			・保育実習Ⅰの振り返りと授業概要の説明	
2	保育実習Ⅰの振り返り (園からの評価 実習簿の確認)			・園からの評価を学生に伝え、自分自身の課題を明確にする。 ・実習簿を読み返し誤字、脱字等を調べる。	
3					
4	指導案作成			・責任実習に向けてグループで設定保育の内容を考え、指導案を作成する。	
5	模擬保育実践			・実際に保育実践を行う	
6					
7	実習Ⅱに向けての課題			・保護者支援、食育、障害児保育等、課題に向けて学び、自身の課題を確認していく。	
8	実習Ⅱに向けての最終確認			・実習生としてのマナーの再確認/提出物の最終確認	
〔使用テキスト・参考文献〕 ・保育所保育指針 ・自主資料 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、レポート等提出物	
〔参考文献〕 ・保育園の実習完全マニュアル ・保育の学びスタートブック					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2023 年度】

【科目名】 保育実習事後指導Ⅱ又はⅢ		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 仲宗根 由美・大城 克也	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
【配当学年・時期】 2年 前期					
【授業の目的・ねらい】 ・保育所、施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・利用者の観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。 【授業全体の内容の概要】 ・支援計画について理解し、どのように活用しているか学ぶ。 ・個々の状態に応じた援助や関わりについて学ぶ。 【授業終了時達成課題(到達目標)】 ・実習Ⅱ事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	----- 実習の振り返り			・ 自己評価及び実習振り返りシートを記入し発表する	
2					
3	保育実習の課題のまとめ			各自、実習を行う再 に立てた課題(5領域、保護者支援、食育)についてまとめる	
4	----- 実習報告会に向けてのパワーポイント作成			各自、実習についての資料作成	
5					
6	----- 実習報告会の及び保育実習Ⅱまとめ			・ 個人の発表や質疑応答等を通して、園における活動や保護者支援の在り方等について学びを深める。 ・ 事後指導を通して実習の総括を行い、新たな課題や目標とする保育者像を明確にする。 ・ 「保育実習Ⅱを振り返って」というテーマでレポートを作成する。	
7					
8					
【使用テキスト・参考文献】 ・ 保育所保育指針 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				【単位認定の方法及び基準】 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 発表、レポート等提出物	
【参考文献】 ・ 保育園の実習完全マニュアル ・ 保育の学びスタートブック					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2025年度】

【科目名】 社会人基礎教育Ⅱ		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 新垣 さとみ	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
				【配当学年・時期】 2年次 後期	
【授業の目的・ねらい】 働く意義や働く上でなぜビジネスマナーが必要なのか？を理解し、ビジネスマナーの基本、社会人としての心構え、接客と接遇の違い、人間関係の5原則、コミュニケーション理論を理解することを目的とする(意識して実践すること)。					
【授業全体の内容の概要】 ■会社員として働いた実務経験並びに人材育成講師業の実務経験を活かし、様々なエピソード(保育士職員研修など)を伝えながら働く意義を掘り下げることの大切さ、ビジネスマナーやコミュニケーション理論を意識して実践することは、全て学びだと捉え、人間関係豊かで働くことが楽しくなるイメージになるようすすめていきます。					
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 1. 敬語の種類と使い分けの基本ポイントを理解する。 2. 電話対応、コミュニケーションマナーを理解する。 3. 上記1・2を理解し、意識して実践を続けることで自己成長につながるイメージができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	目的と評価方法の共有 コミュニケーションと第一印象の法則			コミュニケーションワーク・セルフワークを行い、今の自分と向き合う。人間関係の5原則及びコミュニケーションの4つの特徴を知り理解する。	
2	コミュニケーションと第一印象			1日目の振り返り、コミュニケーション理論、第一印象の法則、メラビアン法則を理解するためのワークを通して、3日目以降に学ぶ内容を意識し、実践することの大切さを理解する。	
3	敬語の基本①			敬語の種類と使い方のポイントを学び、練習問題を実施。また普段よく使う言葉を敬語に変換させるトレーニングを行う。	
4	敬語の基本②			前回の復習及び敬語を意識して使ったロールプレイング(グループワーク)。	
5	電話対応の基本①			電話対応の重要性、一般的な電話対応基本パターン3つ、保井育園・幼稚園職員として保護者にかかる時の基本マナー、気をつけるべきこと、よく間違っている言葉を知る。	
6	電話対応の基本②			前回の復習、ロールプレイング	
7	評価テスト			評価テスト実施	
8	これまでの振り返り・科目のまとめ			働くことは「人の繋がり」＝コミュニケーション力を磨き高め続けること コミュニケーションを磨き高め続けるには コミュニケーション理論と4つの特徴、印象の法則、メラビアン法則 ビジネスマナーもあわせて意識し、日々の実践につなげ 毎日1つでも多くの気づきを得ることの大切さを理解する。	
【使用テキスト・参考文献】 自主制作資料				【単位認定の方法及び基準】 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:レポート・筆記試験	
【参考文献】					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2020年度】

【科目名】 沖縄の伝統文化Ⅰ		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 諸見里青年会	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
【配当学年・時期】 2年次 後期					
【授業の目的・ねらい】 沖縄において広く親しまれている沖縄の伝統文化や芸能。その要素であるエイサーや三線(さんしん)の技法を学ぶとともに、歴史の中で培われてきた文化・芸術を理解する学習とする。また、脈々と受け継がれてきた地域の「伝統と文化」を学ぶことは、次世代への伝統文化を継承していく働きかけであり、それは人々・地域のつながりを感じる豊かな感性やアイデンティティ形成など、こどもの発達につながっていることを理解する学習機会とする。					
【授業全体の内容の概要】 エイサーや沖縄音楽の歴史、楽器の由来・取り扱い方を概説するとともに、代表的な演舞、琉球古典音楽または民謡の課題曲の修得を指導する。各分野においては専門講師を招聘するオムニバス形式で運営する。					
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 課題曲(2～3 曲)を習得できる。踊りながらフェーシも言う事ができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	エイサーの歴史と基礎知識①			エイサーの歴史、太鼓の持ち方等を学ぶ。	
2	エイサーの歴史と基礎知識②			簡単なリズムの曲で基本的な技法を学ぶ。	
3	エイサーの基礎 課題曲①			「課題曲①」 基礎的な演舞法と演奏法を習得する。	
4	エイサーの基礎 課題曲②			「課題曲②」 基礎的な演舞法と演奏法を習得する。	
5	エイサーの基礎 課題曲③			「課題曲③」 基礎的な演舞法と演奏法を習得する。	
6	課題曲の通し稽古			全員で課題曲をつなげて演舞することを学ぶ。	
7	実技試験・科目のまとめ			3 曲予定(進行状況で変更)。	
8					
【使用テキスト・参考文献】				【単位認定の方法及び基準】	
【参考文献】				1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:レポート・筆記試験	

授 業 概 要

【2025 年度】

【2025 年度】

【科目名】 沖縄の伝統文化Ⅱ		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 宮城 萌枝	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
				【配当学年・時期】 2年次 前期	
【授業の目的・ねらい】 沖縄において広く親しまれている沖縄の伝統文化や芸能。その要素であるエイサーや三線(さんしん)の技法を学ぶとともに、歴史の中で培われてきた文化・芸術を理解する学習とする。また、脈々と受け継がれてきた地域の「伝統と文化」を学ぶことは、次世代への伝統文化を継承していく働きかけであり、それは人々・地域のつながりを感じる豊かな感性やアイデンティティ形成など、こどもの発達につながっていることを理解する学習機会とする。					
【授業全体の内容の概要】 エイサーや沖縄音楽の歴史、楽器の由来・取り扱い方を概説するとともに、代表的な演舞、琉球古典音楽または民謡の課題曲の修得を指導する。各分野においては専門講師を招聘するオムニバス形式で運営する。					
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 課題曲(1曲)の意味を理解し、1節を独奏で弾き語りすることができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	沖縄音楽の歴史と三線の基礎知識①			沖縄の歴史の中で三線の位置やその変遷について学ぶ。 沖縄の文化とウチナーチュのアイデンティティについて理解する。	
2	沖縄音楽の歴史と三線の基礎知識②			三線の構えなどの基礎奏法を学ぶ。 ○楽器の取扱い方・各部の名称○基本姿勢・ウマ・指使い・バチ ○音階・調子・楽譜(工工四)の読み解き方	
3	三線の基礎 課題曲①			「課題曲①」を中心に三線の基礎奏法と基礎歌唱法を習得する。	
4					
5	三線の基礎 課題曲②			「課題曲②」を中心に三線の基礎奏法と基礎歌唱法を習得する。	
6					
7	実技試験・科目のまとめ			学生が課題曲を単独演奏で弾き語りを行う。沖縄音楽の歴史を学ぶこと、伝統文化継承の意義を理解する。	
8					
【使用テキスト・参考文献】				【単位認定の方法及び基準】	
【参考文献】				1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート・筆記試験	

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 保育・教育基礎演習Ⅱ		〔授業の種類〕 (講義・演習)		〔授業担当者〕 大城 克也・仲宗根 由美	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕 30時間		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年〕 2年					
〔授業の目的・ねらい〕 保育者として専門性を高めるため、子どもの遊びを豊かにするための知識や技術といった保育技術など実践を通して学ぶ。					
〔授業全体の内容の概要〕 学校行事や季節に合った遊びを、模擬保育や演習等を通して保育技術を獲得する。					
〔授業終了時達成課題(到達目標)〕 様々な保育技術を習得し自身を持って子どもたちと関わるができる。					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	・オリエンテーション	・授業全体の内容を説明していく。			
2	・ゴミ拾い活動	地域の環境をしながら、グループ毎に清掃活動を行う。			
3					
4					
5	製作	・拾ってきたごみ(身近な物)を活用し製作を行う。			
6		・SDGsの観点から、本活動の核を学び保育の視点と合わせていく。			
7	模擬保育	・オペレッタ、リズムダンス、劇あそび、エプロンシアター等、グループ毎に各項目を選択し指導計画を立てる。			
8		・各グループで準備を進めていく。			
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕			
〔参考文献〕		1.学則第18条1項(認定基準)に基づく			
		2.学則第19条1項・2項(成績の評価と履修認定)に基づく			
		3.評価規定…優(A)100点～80点、良(B)79点～70点、可(C)69点～60点			
		4.レポート・筆記試験			

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 福祉・保育セミナーⅠ		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 仲間優子/仲宗根由美/大城克也	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 通年					
〔授業の目的・ねらい〕 保育士の専門性を高めるため、他分野に渡る経験を積む。					
〔授業全体の内容の概要〕 保育士の専門性をさまざまな経験を通して高める。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 体験的な学びを通して保育士としての力量が高まっている。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション			ゼミナールの趣旨説明と今後の日程について	
2	インターンシップ準備			希望先調整・事前準備	
3 ↓ 8	インターンシップ			希望先でのインターンシップ	
〔使用テキスト・参考文献〕				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:レポート等提出物	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2023 年度】

【科目名】 福祉・保育ゼミナールⅡ		【授業の種類】 演習		【授業担当者】 仲間優子/仲宗根由美/大城克也	
【授業の回数】 8回		【時間数】(単位数) 15時間(1単位)		【配当学科】 こども未来学科	
【配当学年・時期】 2年次 通年					
【授業の目的・ねらい】 保育士の専門性を高めるため、他分野に渡る経験を積む。 【授業全体の内容の概要】 保育士の専門性をさまざまな経験を通して高める。 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 体験的な学びを通して保育士としての力量が高まっている。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1 ↓ 2	インターンシップ振り返り		福祉保育ゼミナールⅠで実施したインターンシップ振り返り		
3 ↓ 5	若狭こども園合同遠足		若狭こども園との合同遠足を通して、遠足の企画、安全確認、引率など体験を通して学ぶ。(校外学習)		
6 ↓ 8	漫湖水鳥湿地センター見学		那覇市漫湖水鳥湿地センターを見学し、マングローブ林の役割の理解、くじら公園でレクリエーション活動を行い、遠足の実際を学ぶ。(校外学習)		
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
【参考文献】			1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート等提出物		

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 環境論		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 大城 克也	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 環境と通して行う教育・保育を学び、発達に応じた環境づくりを理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 子ども達にとっての環境を理解する。子どもを取り巻く環境は様々であり、これらを具体的な環境例を示しながら、子どもの発達と関連性を学ぶ。そのなかで、様々な環境と出会いや偶然性に気づき保育環境を構成する知識を身につける。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 子どもの発達と環境の関連性が重要であること、子どもを取り巻く多様な環境を通して行う保育・教育について理解している。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	・環境の定義 ・領域の「環境」			・「環境」という言葉から「保育」と合わせていき、環境の定義を学ぶ。 ・幼稚園教育要領又は保育所保育指針から「環境」の狙いと内容を理解する。	
2	子どもの発達と環境			乳幼児期の各時期における発達と環境を学ぶ ・乳児期 ・1歳児以上3歳未満児 ・3歳以上児 ・子どもの発達を支える環境	
3	保育における環境			保育と環境について学ぶ ・人的環境 ・物的環境 ・自然、社会環境 ・他の環境(色、音、動線、時間等)	
4	季節や行事、地域環境との関わり			季節や行事、地域環境について学び、園外保育における子どもの安全と多様な環境構成を実践する。	
5	園外保育実践①			こども達との園外保育を想定して、様々な場面を想定し安全配慮や環境構成を体験する	
6	園外保育実践②				
7	保育の環境			保育の環境について学び、保育環境の条件について考える ・自分の居場所として居心地のいい環境 ・遊びたくなる環境、試行錯誤のできる環境 ・あそび環境	
8	まとめ				
〔使用テキスト・参考文献〕				〔単位認定の方法及び基準〕	
〔参考文献〕				1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート等提出物	

授 業 概 要

【2025 年度】

[科目名] 教育実習(幼稚園)		[授業の種類] 実習		[授業担当者] 宮川 名子	
[授業の回数] 20日間		[時間数](単位数) 160時間(4単位)		[配当学科] こども未来学科	
[配当学年・時期] 2年次 前期					
[授業の目的・ねらい] 各幼稚園での教育実習を通じて、保育内容・方法、保育者の役割などをこどもとかかわりながら学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 各幼稚園での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など、保育の実際を学ことにより、使命感や責任感を持って規養育実践出来能力を身につけることを目的とする。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 各幼稚園での教育実習を通じて、保育者としての役割について認識を深め、確かな学級運営力、保育指導力、保育としての資質を身につける。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
[使用テキスト・参考文献] 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				[単位認定の方法及び基準] 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物	
[参考文献]					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2025 年度】

〔科目名〕 こどもの理論と方法		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 古見 花梨	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 子どもの理解する視点や方法を確認し、相談援助の実際についても学びを深める					
〔授業全体の内容の概要〕 子どもを理解する具体的な方法、相談支援を行う上で必要なカウンセリングマインドの獲得を行う					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 子どもや保護者への相談支援の基本を獲得する					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握			「子どもを理解する」とはどういうことか	
2	相談支援の基本			カウンセリングの基本姿勢について	
3	子どもを理解する視点			社会的背景について	
4				保育環境について	
5	子どもを理解する方法			具体的方法について	
6				評価について	
7				情報共有について	
8	子どもの自己理解を進める技法			自己理解について	
9	幼児・こども理解とカウンセリングマインド			カウンセリングマインドについて	
10	幼稚園・保育園における園児への心理的援助			保育カウンセリングについて	
11	小学生における児童への心理的援助			カウンセリングの実際	
12	相談支援の実際			支援内容について	
13					
14	家庭・学校・地域との連携			つながり方について	
15	相談支援の課題と対応			支援目標についての考え方	
〔使用テキスト・参考文献〕 こどもの理解と相談支援/豊岡短期大学あ				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験	
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025 年度】

【2025 年度】

〔科目名〕 教育実習事後指導		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 宮川 名子	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 教育実習で学んだことを振り返り、自己課題を把握し、まとめることにより、教育実習での学びをさらに深 くする。					
〔授業全体の内容の概要〕 教育実習での自己課題を明確にし、実習報告会を行う。					
〔授業終了時達成課題(到達目標)〕 実習報告会を行い、自己課題を明確化し、望ましい保育者像を再構築する。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	教育実習の振り返り			教育実習事後指導スクーリングの個人発表から学んだこ とをワークシートに記入し、他者の保育実践からの気 づきを学ぶ。	
2	幼稚園教育要領と教育実習			実習経験から幼稚園教育要領を確認し、気づいたところ を互いに話し合う。	
3	教育実習報告会準備 (1)			教育実習報告会に向け、発表用資料を作成する。	
4					
5	教育実習報告会準備 (2)			教育実習報告会に向け、発表用資料を作成する。	
6					
7	教育実習報告会 リハーサル			教育実習報告会のリハーサルを行う。	
8	教育実習報告会			一人ひとり発表を行うと共に、他者の発表を通して学んだ ことをまとめる。	
〔使用テキスト・参考文献〕 幼稚園教育実習事前・事後指導/豊岡短期大学				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート・筆記試験	
〔参考文献〕 幼稚園教育要領解説					

授 業 概 要

【2025 年度】

〔科目名〕 保育・教職実践演習		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 宮川 名子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期/後期					
〔授業の目的・ねらい〕 これまで学んできた学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任に裏付けされた確かな実践的指導力を身につけた「学級担任ができる」人材を育てる。					
〔授業全体の内容の概要〕 教職、学級経営の意義について理解し、特別支援教育の基礎と特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応方法を理解する。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を踏まえ、子どもの育ちを支える教師・保育士のあり方を学ぶ。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ・教師・保育者に求められる資質や能力、学級担任の役割について理解する。 ・特別支援教育の理念と制度を踏まえ、特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応の仕方を学ぶ。 ・保育における集団の編成、小学校教育との接続について理解する。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション			理論を振り返り、講義内容説明する。	
2	教師という職業			教職の意義、教師に求められる資質と能力、研究・研修の必要性を理解する。	
3	学級と学級経営			学級、学級経営の位置づけを理解し、学級担任の役割を学ぶ。	
4	学級経営案の作り方			学級経営作成上の留意点を踏まえ、実際に作成し発表する。	
5	特別支援教育の基礎			発達障害の諸障害および知的障害について理解する。	
6	特別支援教育と教師・保育者			特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応方法を学ぶ。	
7	保育における集団の編成			異年齢保育、統合保育について理解し、幼児教育の将来的展望を考える。	
8	小学校教育との接続			幼稚園・認定こども園・保育所・小学校の教師・保育士の連携について学ぶ。	
9	学級経営			学級経営における臨床場面での教師の対応（ロールプレイング）	
10	保育現場での対応			課題のある子どもの事例研究を行う。	
11	集団討論			教育課題の解決への教師としてのアプローチ	
12	保育計画			保育計画を作成し、模擬保育を行う。	
13	統合保育			統合保育、異年齢保育に関わる課題と展望	
14	保幼小連携			子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方	
15	学習のまとめ			自己の振り返り、今後に向けての課題を行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 保育・教職実践演習（豊岡短期大学）				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:課題発表、レポート等提出物	
〔参考文献〕 幼稚園教育要領 保育所保育指針解説					